

禾生地区

四日市場表向

臨濟宗

生出山 清泉寺

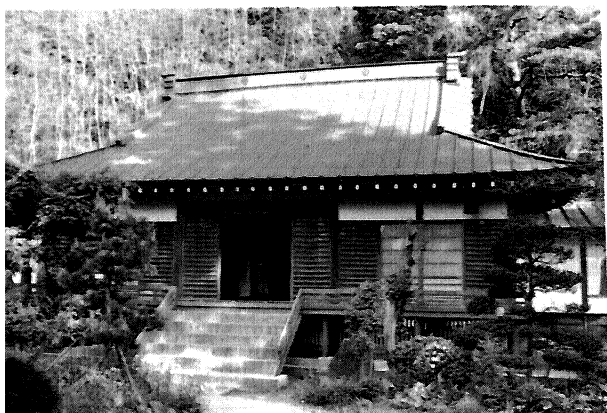
妙心寺派 桂林寺末

本尊由緒

薬師如来、木像坐体、像長13cm、行基菩薩作。

合祀

地藏尊、十六大王。



清泉寺 本堂

開山履歴

開山開山恵広和尚（桂林寺五世）の伝法による円巖全通和尚。（甲斐国志には開山弁翁西堂禪師とある。）

結構規模

〔本堂〕トタン葺 6K
 × 55K、明治初年再建。
 〔庫裡〕トタン葺 5K
 × 7K、明治初年姥沢

小林氏宅のものを移築。

歴代住職

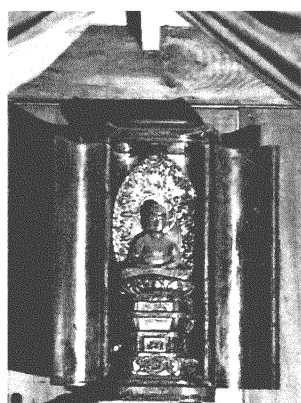
開山円巖全通―二世東隣元鯉―三世岷禪梵是―四世月泉曹指―五世鶴州士鉄―六世神州慈仙―七世圭良融―八世宝州良剛―九世讓海（仮住鷲公雲山）―十世晩峯良道（現住）

講社

花園会。

行事

・地藏尊祭り、四月二十四日、延命地藏で耳をよくすると伝承されている。



清泉寺 本尊

・施餓鬼会、九月二十六日、併せて稚蚕祈禱を行う。

曹洞宗 岩生山保寿院



保 寿 院 本 堂

長生寺末
本尊

十一面観世音菩薩
脇侍 不動明王尊
毘沙門天

開山履歴

開山明庵宗鑑和尚は、
出雲国大社附神官の
子にして、七才の時
仏門に入り人と成る
に及んで参禅学道に
志し、厚く高德の師
に歴参し文学によら
ず禅の道においても

高名であったと、広蔵院妙亀録に記載されている。なお明庵和尚は天正三乙年十一月十九日当山において遷寂（甲斐国志に天正六年卒とあるが誤りのようである。）

結構規模

〔本堂〕木造平屋寄せ棟で五九坪。明治年間焼失し、井倉平

井弁長家を移築す。

〔庫裡〕木造平屋六〇坪、焼失後四日市場草薙家を移築す。

〔総門〕コンクリート造りである。

歴代住職

開山	明庵宗鑑	長生寺五世、天正三年十月十九日寂
二世	格応宗悦	慶安三年三月十三日寂
三世	一卓是教	長生寺十五世、貞享四年五月二日寂
四世	松山宗鶴	宝永五年五月二十一日寂、谷村之産
五世	大雄萊仙	享保元年十月二十二日寂、小沢村之産
六世	孤峰是海	寛保三年七月十四日寂、河口村之産
七世	大峰龍道	延享四年八月二日寂、相模国津久井之産
八世	寛道仙海	明和五年四月二十五日寂、十日市場之産
九世	法円達道	文化元年九月二十日寂、四日市場之産
十世	実参泰了	文政六年一月十五日寂、尾州知多郡之産
十一世	活龍万全	文政八年二月十七日寂、萩原村之産
十二世	優山 元牛	慶応三年二月五日寂、甲府之産
十三世	東海大龍	不詳
十四世	元山 元宗	紀州之産、当山より紀州安楽寺へ転住
十五世	玉淵祖龍	遠州佐野郡之産、当山より壽地福昌寺 秋田清光寺へ転住、姓小佐野、明治二十五年十月十九日寂
十六世	瑞雲龍光	越後之産、明治九年普門寺へ転住 明治三十八年三月二十六日寂八十二才、姓鷹林

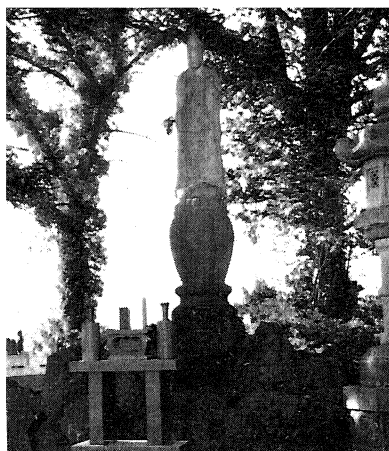
民間信仰による行事

五月二十九日 ア

ツツ観音縁日（ア

ツツ島及世界戦歿

者尉霊）



アツツ観音

石仏

アツツ観音奉讃会

講社

二十世 洞岳明三

現住
信州坂城之産
昭和十二年四月十六日寂、姓小宮山

十九世 宝岳雄芳

伊豆国之産、日露戦役に出征明治十七年八月十九日戦死
姓渡辺

十八世 玄光洞龍

小田原市之産、明治三十五年普門寺へ転住
昭和十五年一月十四日寂、八十六才、姓山崎

十七世 玄洞悟中

アツツ観音、アツツ島戦歿者尉霊と世界平和祈念のため、昭和二十九年五月二十九日山崎部隊長（当山十七世の長男）出生の地として建立。

正法観音像、昭和三十八年五月開眼、瀬戸市水野家康作。

恒例行事

八月八日 施餓鬼会



保寿院 本尊

古川渡

臨済宗 日出山東陽院

妙心寺派桂林寺末

本尊

本尊は聖観世音菩薩。

合祀仏は十一面観音。

興起縁由

詳細については不明である。明治初期まで寺小屋であった。現在保育園を経営している。

開山履歴

格智禅師で本寺桂林寺開山と同じである。この寺は平僧寺であったが、禅桂和尚の時安永九年八月法寺となった。従って



東陽院 本堂

禅桂和尚を中興開山
と称してい。

結構規模

本堂トタン葺寄棟
4 K。

保育園舎。

歴代住職

開山格智禅師 永享

五年八月十五日寂。

玖室西堂―養屋西堂

―円了頓首座―天祖

恵雲首座―快峯祖祐

首座―和山禅雅首座―覚翁文海首座―巨林座元(禅桂和尚当
山中興)―寛道座元(宗岳和尚)―旭山座元(古鶴和尚)―
万芳長老(政栄和尚)―現住(折山義晴和尚)。

石仏

六地藏尊 一基

七地藏尊 一基

行事

開山忌 施餓鬼会

春秋彼岸会等。

文書写

(西津市平沢高橋忠平家蔵による)

川茂

浄土真宗

川心山浄泉寺

西本願寺末



浄泉寺 本堂

本尊由緒

阿弥陀如来

木像立体

像長 70 cm

肩幅 23 cm

面長 15 cm

面幅 9 cm

運慶の作と伝

えられている。

興起縁由

養老年間僧行基が、川茂渡し場に薬師堂としての浄土窪精舎
を建立したのが始まりである。その後現在地に移転し、天台
宗として二十四代続いた。二十四代目の願正法師が浄土真宗
八代蓮如上人の教えを受け転派した。願正法印は天野左エ門

・北畠顕基(勘左エ門)に関する資料写。

・往来一札の事

一甲州都留郡古川戸村自円代々禅宗而、拙寺弟子に紛無御座
候、此度回国修業に罷出候

諸国海陸

一御用所無相違御通シ可被下候 若シ病死仕候ハバ其所以御

慈悲御処置被成候テ此方ニ御届及不申候為其往来如件

安永六丁酉二月二十一日

甲州都留郡古川戸村

禅宗 東陽院 ㊦

諸国海陸

御関所御番衆中

国々村々名主衆申



東陽院 本尊

佐頼定である。(甲斐国志に、開基了宗法師俗姓天野左衛門
頼定とある。頼定は天台宗の廃寺浄泉寺を建立し願正寺と
改め浄土真宗とした。二世宗願法師が再び寺号を浄泉寺と改
めた。以来 在の住職まで二十一代続いている。

二十一世現在住職は、川茂岱定法師である。

結構規模

〔本堂〕木造瓦葺入 屋造り 11 K × 11 K

〔庫裡〕木造三階建ト幹ン葺 11 K × 6 K

明治十一年三月二十七日の火災により全焼、庫裡は直ちに十
日市場万蔵院の庫裡を買って移築したものが現在の庫裡であ
る。本堂は明治二十六年完成し現在に至っている。別に鐘楼
堂、保育園舎がある。

古器什器宝物

・六字名号、十字名号二幅蓮如筆、九字名号を添えて三幅一對
にして、開基了宗が真宗に改宗の時蓮如より賜わったもので
あるが、後に戸沢正蓮寺に所縁あって九字名号は正蓮寺に譲
渡した。

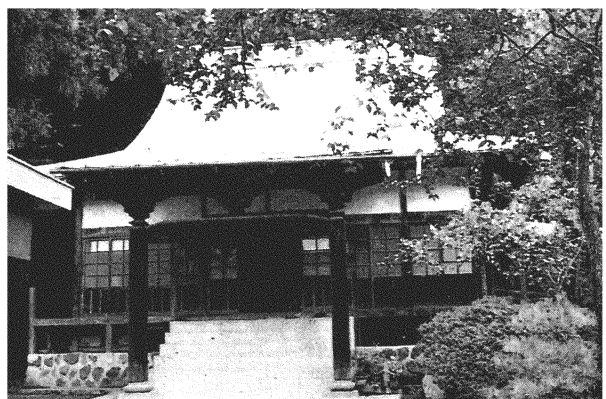
・実如筆

・弥陀影像一幅、恵心僧都筆

- ・中啓扇、彩画本願寺寂如所持のもので万福寺宗誓に賜わったもの。同じく中啓扇彩画南禅寺竺道禅師所持のもの。
 - ・禅板一枚、板面に「生死事大無常迅速」の字がある。これも竺道禅師所持のもの。
 - ・慈鎮和尚和歌、本願寺寂如筆一軸
 - ・同円成山宮御筆一軸
 - ・和歌一軸、二条為冬御筆
 - ・蓮如六字名号一軸、小幅八切の名号と称す。
 - ・本願寺良如所持の袈裟一掛
 - ・円光大師一枚起証文一軸
 - ・聖徳太子、木像立体、像長51cm、肩幅4cm 面長10cm 面幅7cm 胎内に滝見観音が祀られている。滝見観音は土製坐像16cm。
 - ・聖観音、行基作といわれている。木像立体、像長66cm 肩幅14cm 面長13cm 面幅7cm
 - ・薬師如来、木像 行基作
 - ・親鸞肖像、蓮如作
 - ・天満天神、木像
 - ・如意輪観音（護持仏）
- 「この尊像は後水尾院皇女林丘寺宮光子内親王、法称名魚山

川茂亀石

浄土真宗 常現山西光寺



西 光 寺 本 堂

- 本尊由緒 西本願寺末
- 阿弥陀如来、木像立体、像長55cm 肩幅20cm 面長1cm 作者不詳。
- 合祀 釈迦牟尼如来像
- 像長74cm 肩幅20cm
- 末寺縁由
- 西光寺の末寺として、古川渡新井に実成山阿弥陀寺があった。

現在同地の加藤家の所有地となっている。加藤家の先祖が管理していた。慶応三年正月廃寺となる。なお阿弥陀寺の本尊は木像立体（三尺五寸）合掌地藏尊二体、三尊迎來仏等は当寺の宝物として現存している。この阿弥陀寺は天台宗の末流で、行基菩薩の遺跡であるといわれている。

興起縁由

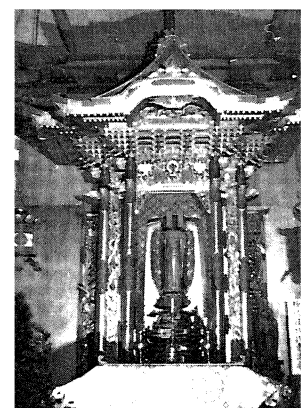
玄瑤大師種葉書大士号細末和漆手自造、從竺源和尚賜蘭室東都拝敬光子内親王延宝八年庚申九月十九日落成四十七才」と甲斐国志に記されている。以上のうち聖徳太子像を除く十六品の寺宝は、住持宗賢が正徳中万福寺より当山へ入院の持持ち来ったものである。

なおこの外に寺宝として次のものがある。

- ・聖徳太子伝、上下二軸（万福寺より伝来） ・寒山十徳三幅対
- ・雪舟画一軸
- ・松平甲斐守より祈禱料書付一通（折）
- ・宗門帳五人組帖 天保二年九月
- ・宗門帳五人組帖 天保七年三月
- ・宗門帳五人組帖 天保十四年三月
- ・名寄帳一冊 天保十四年十月
- ・過去帳 慶長十七年

民間信仰行事

お太子講、「お経さんのまつり」ともいわれ、諸職の神として信仰が厚く、お太子命日の四月二十二日の例祭は大変な賑わいで、何百年もの永い間続いて現在に及んでいる。



浄泉寺 本尊

甲斐国志に、「開基は了恵法師寛永十年寂」とあるが、寺記によれば「開基は護法坊常現恵達法師で、恵信僧都の直弟子にして後冷泉天皇の御宇当地に下り当山を創立し、天台宗にて西光院と称した。時に康平二年（一〇五九）である。延久二年（一〇七〇）十月二十七日寂。世寿八十七才」と記されている。

開山履歴

開祖は了念法師にて、開基より二十四代、了念蓮如上人当国巡化の際浄土門をきき真宗に改宗す。従つて了念は改宗開山である。了念は南朝の遺臣大宮帯刀の二男にして奈良姓となる。明応九年（一五〇〇）十二月十二日寂。了念より現住まで十六代。開基より現住まで四十代。了念より十二代目の廓亮は、内外典に精通し寺小屋を開設し門弟百有余人あったといわれている。明治十七年二月二冊六十九才にて示寂。

結構規模

〔境内地〕二五〇坪

〔本堂〕木造トタン葺 7×7。昭和七年新築

〔庫裡〕木造トタン葺 6×8。明治十一年二月、東桂夏狩旧家勝侯氏の所有のものを一部改造した。しかし原型のまゝである。他に鐘樓堂がある。

行事

春秋二回永代釜、報恩講、春秋彼岸会、宇蘭盆会、月例説教
仏誕生会、仏教婦人会例会年二回、地藏尊会、白清庵会等。



西光寺 本尊

小形山

臨済宗

桂林山富春寺

(妙心寺派) 桂林寺末

本尊由緒

本尊は三尊弥陀仏にして応永二十一年開山禪師安置す。

弥陀仏は運慶作といわれている。像長 48.5 cm 肩巾 13 cm 面長

11 cm 面巾 7 cm

合祀仏

脇侍木仏立像にて観音 勢至。

薬師如来(胎内仏) 坐像 10 cm 膝張り 85 cm

古器、什器、宝物

涅槃像画(色彩) 一巾(155 cm×23 cm) 天保四年二月大吉

白隠禪師筆の臨済禪師画(墨絵) 一巾

白隠禪師筆の万霊等

石仏像

地藏尊、六地藏尊、庚申。

恒例の宗教行事

宇蘭盆会八月十五日。 春秋彼岸法会。

民間信仰行事

一月十六日、十王尊忌(初まつり)。この日は近隣各部落の
者が参詣し、露店も十軒程度出て賑やかである。
なおその外に民間信仰として乳神さんがある。



富春寺 本尊



富春寺 本堂

興起縁由

往昔人皇五十五代淳
和帝御宇、空海大師
伊豆修禪寺より来化、
小形山桂川の清流に
臨み一堂を建て地藏
を彫刻し秘仏本尊に
安置す。

開山履歴

応永年間鎌倉より格
智禪師来々々遊化
す。道俗禪師の道風

結構規模

を欽慕し乞うて開山に拝請す。

〔本堂〕木造瓦葺三十坪 昭和二十五年改築。

〔庫裡〕木造トタン葺四十三坪 昭和四十一年改築。

十王堂 木造トタン葺三坪 観音堂 木造トタン葺三坪

鐘楼 昭和四十九年建立。

歴代住職

開山格智禪師―二世定巖―三世大称―四世亮瑞―五世丹田―

田野倉

臨済宗

竜徳山瑞雲寺

妙心寺末

本尊由緒

延命地藏菩薩

木像坐体像長は

40 cm

合祀

・三十三体観音、

西国三十三番札

所であるといわ

れている。木像

厨子入り。

・文殊菩薩 木像

厨子入り 像長

28 cm。

・薬師如来 木像

立体厨子入り、

像長 18 cm。



瑞雲寺 本堂

・誕生仏 21 cm
興起縁由

北条某女尼となり開基すと伝えられているが、寺記には熊坂三郎氏先祖の開基とある。しかし、この寺は文安元年、天保年間、明治十六年、明治二十六年等数度の火災に罹り諸記録焼失し開創由緒については不詳である。なお桂林寺末であったが、大正五年三月十日より妙心寺直末となる。

結構規模

〔本堂〕 寄せ棟トタン葺 45K×55K

〔庫裡〕 木造トタン葺 45K×2

何れも明治二十六年建立された。

歴代住職

開山一応全諾―二世英国古雄―三世法洲祖勸―四世大陵義芳―五世仲道智仙―六世大敬禪忠―七世桂岳周芳―八世魏洲宗寔（現住）



瑞雲寺 本尊

石仏 地藏菩薩
民間信仰行事
・地藏講縁日
・熊坂観音祭り、
今もなお行われている。

田野倉

浄土真宗

紫雲山法福寺

東本願寺末

本尊 阿弥陀如来

興起縁由



法福寺 本堂

開山周円房西賢上人は、信州長沼浄興寺の住職であった。永禄四年川中島合戦の兵火に遇い堂宇が焼失したので、甲斐の国鶴の郡小形山古屋渡の地に難を避け、一字を建立し浄興寺と号した。

文禄元年九鬼原に転じ、更に慶長六年田野倉中野の地に移転、慶安三年東本願寺派に改派し、寺号を「法福寺」と改称した。明治八年五月九日支坊であった、聖徳太子開基による紫雲山来迎寺を合併す。

（山号は甲斐国志に「平遊山」とあるが、現在「紫雲山」と称している。）

歴代住職

開山 西賢上人

永禄七年十月十日示寂 世寿八十九才

二世 西順御房

天正三年十月十四日示寂

三世 順了法師

浄興寺を九鬼原に移転
慶長五年三月三日示寂

四世 了樹法師

浄興寺を田野倉中野に移転

五世 利樹法師

六世 宗玄法師

東本願寺派へ改派す
正徳二年十一月十九日示寂 世寿七十八才

七世 宗沢法師

天和三年十一月二十日示寂 世寿三十九才

八世 順正法師

享保二十一年十一月二十六日示寂 世寿七十六才

九世 了順法師

享保二十一年十二月二十九日示寂 世寿四十九才

十世 了識法師

当山中興
安永六年五月二十三日示寂 世寿六十四才

十一世 了性法師

寛政十一年四月十四日示寂 世寿五十六才

十二世 了因法師

文政十一年九月二十四日示寂 世寿二十一才

十三世 了円法師

天保六年十月二十四日示寂 世寿二十五才

十四世 了徹法師

明治十年四月十七日示寂 世寿五十才

十五世 真誓法師

大正六年九月十六日示寂 世寿五十三才

十六世 真賢法師

現住

結構規模

〔本堂〕 木造瓦葺向拝造り 5K×5K 昭和五十年十一月八日再



法福寺 本尊

建落慶入仏法会修行

〔庫裡〕 木造トタン葺 55K×4K

田野倉

禅臨済宗

地藏堂尼寺

名古屋青大悲寺末

本尊 釈迦牟尼仏

開基 無明院日観大

拙法師

創立 明治末期

建物 境内約二〇〇

坪の中に、木造平屋

トタン葺 (85K×5K)

の堂宇

現住 大野貞山尼

この寺創立当初は「如来宗」と称し真宗に属していたが、現



地蔵堂 尼寺

在は「禪宗臨濟宗」に所属しているとのことである。



地藏堂 本尊

古川渡

浄土宗 岩光山念宗寺

長安寺末

除地一畝十八歩

本尊釈迦牟尼仏

開基成誓念崇（長安寺二世吟応上人の弟子）

（現在境内の一部に面影を残し、伽藍は焼失してない。）